

試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

平成 31 年度
編入学 専門科目試験問題
(100 点
60 分)

千葉県立保健医療大学 健康科学部
看護学科

注意事項

1. 問題冊子は、表紙を除き 4 頁である。
2. 問題冊子及び解答用紙の印刷が不鮮明などの場合には、手を挙げて監督員に知らせること。
3. 解答は、必ず黒の鉛筆（シャープペンシルも可）で解答用紙に記入すること。
4. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。
5. 不正行為に対しては厳正に対処します。

【問題1】文章の空欄①～⑮にあてはまる適切な語句を入れなさい。解答は解答欄に記載しなさい。

1. 熱産生は、組織の物質代謝に伴って起こる。活動時は（ ① ）に、安静時には（ ② ）に由来する熱産生が増加する。新生児の場合は、（ ③ ）組織に由来する熱産生も加わる。
2. 子どもに対して治療や処置を行う際、子どもが理解しうる内容や方法で説明して子どもの納得を得ることを（ ④ ）という。また、自ら主張することのできない子どもにかわって子どもの利益を代弁し擁護することを（ ⑤ ）という。
3. 出生の動向を観察する指標として、15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計した（ ⑥ ）出生率がある。
4. 重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される（ ⑦ ）ケアシステムの構築が求められている。
5. 精神科デイ（ ⑧ ）は、精神障害者の社会生活機能の回復を目的として個々の患者に応じたプログラムに従ってグループごとに治療するものである。
6. 1986年のオタワ憲章では、（ ⑨ ）とは「人々が自らの健康をコントロールし改善できるようにするプロセスである」と定義された。
7. 日本の障害者支援は、障害のある人もない人も、互いに支え合い、地域で生き生きと明るく豊かに暮らしていける社会を目指す（ ⑩ ）の理念に基づき実施されている。
8. 健康な人では問題とならない病原体に対して、免疫機能が低下している患者が発症することを（ ⑪ ）感染という。
9. 成人の学習者が、主体的に問題の解決に取り組めるよう成人の発達段階の特徴を踏まえて、学習を支援するという考え方を（ ⑫ ）という。
10. 骨粗鬆症に対する指導には、適度な運動や、バランスのよい食事、（ ⑬ ）を生成するために日光を浴びることなどの内容を含む。
11. 高齢者の日常生活活動の評価として、基本的な日常生活活動と、買い物や食事の準備、洗濯などから自立の状態を評価する（ ⑭ ）日常生活活動がある。
12. がん転移の経路には、血行性転移、リンパ行性転移、（ ⑮ ）性転移がある。

【問題2】以下の文章について、正しければ「○」、誤っていれば「×」を、解答欄に記載しなさい。

1. 頻回の嘔吐により胃液が喪失すると、代謝性アルカローシスに陥ることがある。
2. 4種混合(DPT - IPV)ワクチンは、ジフテリア・百日咳・破傷風・ポリオを対象とする不活化ワクチンである。
3. 先天性心疾患術後の乳児には、啼泣による酸素消費量の増加を抑制するために、おしゃぶりやスイングラックを使って安静を保持する。
4. マタニティブルーは、抑うつ気分、落胆、涙もろいなどの症状が一過性に出現する状態であり、産後1～2日目に発症することが多い。
5. 日本の総人口の動態を見ると近年、増加傾向である。
6. 地域保健法において、保健所と市町村保健センターの設置について定められている。
7. 医療者と患者の相互信頼の関係をレジリエンスという。
8. 介護保険制度における第2号被保険者に、指定難病による要介護者は含まれる。
9. 急性ウイルス性肝炎のうち、A型肝炎の感染経路は、主に経口である。
10. 胃切除術後の早期ダンピング症候群では、低血糖症状を生じやすいため、飴をなめるなどの対処をするとよい。
11. パーキンソン病は、指定難病ではあるが、難病医療費助成制度の対象ではない。

【問題3】以下の事例を読み、問いに答えなさい。解答は解答欄に記載しなさい。

42歳の男性Aさんは、今年の4月に課長に昇格とともに異動となり単身赴任の生活となった。上司からも部下からも頼りにされ、その期待に応えたいと思い、誰よりも早く7時に出勤し22時過ぎまで働いている。そのため、昼食はラーメンを短時間で済ませ、夜はコンビニエンスストアで500mlの缶ビール2本と3~4種類の揚げ物やアイスクリームを買い込み満腹になるまで食べて2時に就寝している。朝はギリギリまで寝て、朝食は食べずに出勤している。休みの日は趣味の水泳に行きたいと思っているが、昼まで寝ており自宅から1歩も出ずに過ごしている。最近、体重が増えスーツのサイズを上げた。また、昨年健康診断では、肝機能検査結果で指導を受けたが何もせず、高血圧で受診を勧められたが未受診のままである。今年の健康診断は仕事が忙しく受けていない。

問 Aさんの疾病予防対策として必要なことは何か。予防医学における一次予防と二次予防の観点から、Aさんの状況にあった具体的な予防方法を2つずつ記載しなさい。

【問題4】以下の事例を読み、問1~問3に答えなさい。解答は解答欄に記載しなさい。

第2子妊娠中のBさん(38歳、専業主婦)は、身長154cm、非妊時体重65kg、非妊時BMIは27.4である。会社員の夫と1歳男児と3人家族であり、平日は、家事と育児を1人でこなしている。本日、妊娠34週0日の妊婦健康診査を受診したところ、体重69.0kg(前回健診より1.0kg増加)、子宮底長29.0cm、腹囲98.0cm、血圧145/90mmHg、尿タンパク(+)、尿糖(+)、浮腫(+)、胎児心拍数116bpm、骨盤位であり、妊娠高血圧症候群と診断された。Bさんは「上の子の時も、ちょうどこの頃に妊娠高血圧症候群と言われたんですよ」と話している。

問1 妊娠高血圧症候群の診断の根拠となった情報を2つあげなさい。

問2 Bさんの妊娠高血圧症候群の発症リスク因子を2つあげなさい。

問3 Bさんの妊娠高血圧症候群の悪化を予防するための食事について、エネルギー摂取と塩分摂取の観点から、根拠を示して具体的に説明しなさい。

【問題5】以下の事例を読み、問1および問2に答えなさい。解答は解答欄に記載しなさい。

Cさん（73歳、女性）は、2年前にアルツハイマー型認知症を発症し、娘と同居している。発熱が続き、食事もとれなくなったため病院を受診したところ、肺炎と診断された。医師は、Cさんに肺炎の治療のために入院が必要であることを説明し、Cさんは「わかりました」と答えていた。入院2日目に、抗菌薬の輸液ラインを抜こうとするしぐさがみられたため、内服の治療に切り替えられた。また、①トイレから戻る時に、自分の部屋がわからなくなり違う病室に入ろうとする行動がみられた。入院3日目に、②病院のレンタル寝衣を着替える際に、袖に腕を通したり抜いたりする動作を繰り返し、どうしてよいかわからない様子であった。また、Cさんは、「娘の食事の準備があるので帰ります」と何度も看護師に訴えた。

問1 下線①と②について、該当する認知症の中核症状を記載しなさい。

問2 Cさんが安心して入院生活を送れるようになるための支援目標を2つ挙げ、それぞれ具体的な方法を記載しなさい。